

今度は..「今後4年で70億円の収支不足」

➔ さらに市民サービスカットなどを狙う

4年前..「4年間で85億円の収支不足」

➔ 結果は市民サービスカットなどで3年連続黒字

宇治市は、「行政改革審議会(以下「行革審」)」に今後4年間(2022年~2025年度)で約50億円の収支不足、新たな行財政需要として約20億円、あわせて約70億円の財源不足になると財政見通しを示しました。

しかし、歳入見込みでは、来年度の市税収入は、ほぼ今年度並みと見込んでいます。しかし、市内に事業所のある大手企業等は、コロナ禍のもとで利益を上げています。市税は、前年度の所得に課税となりますから、今年度好調であれば、来年の市税に影響がでます。

収支不足が続くと、さらに市民サービスカットを狙っていますが、根拠を示すべきです。

財政見通し

「行革審」資料

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
歳入	見込み①	649.6	653.5	655.2	656.2
	(うち市税)	234.5	236.0	234.3	234.8
歳出	見込み②	669.0	661.7	665.7	667.8
	①-②	△19.4	△8.2	△10.5	△11.6

(単位：億円)

「財政健全化プラン」で 市民サービスカットなど約60億円

市は、4年前に「今後4年間で85億円の収支不足になる」として収支不足を解消するため「財政健全化プラン」を策定し、2018年度

の当初予算では、文化センターやコミセン、駅前駐輪場、斎場、公園、体育館などの公共施設の使用料を10~25%も値上げをし、敬老会、農林まつり、健康まつり、高齢者あんま・マッサージ・指圧・はり・きゅうの助成、在宅介護者激励金など市民サービスをカットしてきました。

ところが、下表のとおり3年連続で、単年度の収支は黒字が続いています。

この結果について、市は「行革審」に報告した「4年間の財政健全化の取組等について」で、「人件費等の削減、個人給付やイベントなどの事務事業の見直し、使用料・手数料等の見直しや市有財産売却等による歳入の確保」が約60億円としています。そして、見込みより税収は約20億円増収となっています。

歳入を少なく見込んで、歳入不足になると大宣伝し、市民サービスをカットしてきたことが、市当局の資料からも明らかになりました。

収支不足の見込みと実績

「行革審」資料

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
歳入	見込み①	623.4	623.0	627.1	624.5
	見込み③	633.9	644.4	652.0	652.5
歳出	①-③	△10.5	△21.4	△24.9	△28.0
	単年度収支	1億円	2.3億円	1.5億円	

(単位：億円)



宮本繁夫議員 山崎恭一議員 坂本優子議員 渡辺俊三議員 山崎匡議員 大河直幸議員 徳永未来議員

日本共産党
宇治市会議員団

2021年12月19日

宇治市宇治琵琶33

宇治市役所内

TEL : 0774-22-3141(内線2817)

FAX : 0774-24-7884

